

沼島小中一貫校 学校紹介



「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる、心豊かな沼島っ子の育成」

統一した「学校の教育目標」「めざす子ども像」「めざす教師像」のもと、9年間の児童・生徒の成長を見据えた教育を推進する。

【施設併設型 沼島小中一貫学校:概要】

- ①小中学校の校舎を利用した併設型。
- ②小中両校に校長、職員組織を置く。
- ③小中合同会議で、目標・計画・分掌行事等を決定する。
小中別の職員会議や委員会等も設置。
- ④学年の区切りは、6-3制。
- ⑤9年間を見通した教育課程を編成する。
- ⑥中学校教員の専門性を活かして一部小学校の授業を担当し、学力向上と小中の指導に連続性を持たせる。
- ⑦小規模特認校に認定され、市内全域からの通学、就学が可能。



1. 9年間の連続性のある「きめ細かな指導」

- ①「めざす子ども像」を小中学校で共有し、9年間を見通す生活指導
- ②小中学校の円滑な連携により、個に応じたキャリア教育と進路指導
- ③小中学校合同の行事等を通して、全ての教職員が児童・生徒の指導に関わる体制づくり



【沼島小中学校教職員の取組】

- ①小中一貫教育の充実に向けて「合同研修会」「合同授業研究会」等を継続して実施。
- ②少人数での「言語活動の充実」を目指し、ICT活用を含めた指導方法の研究。



2. 「未来を切り開く」ための教育の充実

- ①中学校教員の専門性を活かした、小学校への乗り入れ授業
(令和7年度は、6年生の算数・外国語、国語・理科・社会の単元授業で実施)
- ②少人数を生かした個別最適な学び、協働的な学びの充実
- ③豊かな言語活動とコミュニケーション能力の育成



3. 「ふるさと沼島を愛する子」を育てるふるさと教育の推進

- ①「沼島の良さ」を調べる
→ 沼島の自然、歴史、文化
- ②「沼島の良さ」を体験する
→ 「沼島子供太鼓」「沼島音頭」
→ 「沼島の食育」(魚を捌く、地産地消給食等)
→ 行事等を体験する
- ③「沼島の良さ」を発信する
→ 学んだことを行事等さまざまな形で発信

【小規模校の課題への対応】

- ①多面的な見方や、コミュニケーション能力の育成。
・主体的・対話的な授業により、子どもたちの考えを引き出す教師の指導力の向上。
- ・自校、他校の小中学生、保護者・地域の方との意図的な対話・交流場面の設定。
- ・他校との授業実践交流(資料、ICT活用)
- ②キャリア教育の充実
・他校の児童生徒と交流。またオンラインで企業とつなぎ、その企業理念等に触れながら、自分の生き方について考える。



『沼島小中一貫校と沼島の子どもたちを支える地域(行政)』

・小中一貫教育・小規模特認校制度への理解 ・移住者等の受け入れ体制(リターン、里親、寮制度) ・観光客の呼び込み ・働く場の創出など